

月 NEXT STAGE

火 開発 デザイン

水 調達 物

## デザインで競争力強化

日本システム研究所  
(川崎市中原区、松下  
幸夫社長、044・7  
40・3351)は、  
1968年の創業。以  
来、電気材料の検査装  
置を主に手がけてき  
た。長年、センサー関  
連品を扱ってきた実績  
を生かし、近年はハン  
ディタイプの肌診断  
機「ナチュラルセンサ  
ー」の開発製造にも乗  
り出している。デザイ  
ン性が問われる製品の  
開発で、どのような工  
夫を凝らしているの  
か、松下社長に聞い  
た。(横浜・大原翔)

—肌診断機を扱うよ

日本システム研究所社長 松下 幸夫氏

# 肌診断機 角度にこだわりの

うになった経緯は。

う。

「取引先の化学メー  
カーが化粧品事業に乗  
り出した時、当社が依  
頼を受けて肌の水分セ  
ンサーを開発したのが  
きっかけだ。現在は化  
粧品メーカーの販売  
向けに、肌のデータを  
活用したタブレット端  
末向けアプリケーション  
(応用ソフト)と併  
せて提供し、販売支  
援を行っている」

「デザイン面での工  
夫は。—今後、どのよう  
な事業展開を考えていま  
すか。」

「試作機は自分の肌  
の角度を直角にして  
いたが、販売員は他人  
の肌にあてて使うた  
め、この角度を150  
度ほどに広げた。また  
試作機は本体が角張っ  
ていたが、握った際に  
手にフィットするよう  
滑らかなデザインに  
更した」

「今のデザインに至  
った背景は何でしょ  
う。—海外でスキンケア  
に関する医療分野の販  
路を開拓することも視  
野に入れる」

